

大芦小学校の今後の方針に関する意見交換会

令和7年5月24日(土) 10時～12時10分

大芦小学校 体育館

【参加者数】

45名

※在校生保護者:13名

未就学児保護者:3名

地域の方:29名

【出席者】

(教育部)鳥沢部長・松本副部長

(教育総務課)長島課長・新井主幹・堀主任・木崎主事

【事務局説明】

市教育委員会では大芦小学校と吹上小学校の統合に関する適正配置等の計画について、審議会へ諮問し、令和4年8月26日に、審議会からの答申をいただいている。答申をいただいてから、これまで、意見交換会やあり方研究懇話会、意見書や提言書にて意見をいただいていた。

これらを踏まえて、教育委員会としては、現在と、将来に向けた子どもたちの教育環境を考えると、令和4年度に審議会からいただいた答申を踏まえ、令和9年度までを予定年度とする計画のとおり吹上小学校との統合に向けて取り組みたいと考えている。

配付資料には、大芦小学校の通学区域や、これまでの児童数の推移と今後の見込みを掲載している。10年前の平成26年5月1日に150人いた児童数は、令和7年2月1日で107人と減少し、令和12年は58人と約1/3にまで減少する見込み。

住民基本台帳上の数字であることから、この数字が変動することはもちろん考えられる。特に令和11、12年度は不透明だが、これまで保護者の皆さんにも何度か資料を配付した中で、児童数の推移を掲載しており、入学の段階で、大きく児童数が増えるといったことは考えづらく、むしろ若干減ってしまう可能性もある。また、吹上小学校も同様に児童数の減少が想定されている。

【主な意見とその回答】

○地域の方

・通学区域の変更を行うことができないのか。

⇒通学区域の変更については、合併前の平成16年から検討が行われ、合併以降も続けられてきたが、平成19年に凍結され、平成24年に白紙になった経緯がある。

・仮に統合するのであれば、吹上小学校ではなく、高崎線の線路を挟んで南側の地域のほぼ真ん中に位置し、また、大きな校庭を有する大芦小学校を存続させるのが良いのではないかと。大芦小学校を存続さ

せることで、大芦地域のコミュニティ拠点、防災拠点に活用できるものと考えている。

⇒通学区域の変更を検討していた時と異なり、現在は吹上小学校と吹上中学校を改修及び新築し、学校を残していくという方向に舵をきっている。

また、大芦地域においては、将来的に児童数が減少していくことが見込まれている。児童数はすぐに増えるものではなく、少なくとも直近では一桁になることが数字で示されており、このような人口の張り付きを加味しても吹上小学校を存続させていくことが妥当と考えている。

○地域の方

・個人的な見解ではあるが、大芦小学校と吹上小学校を比較したときに、教育環境として優れているのは大芦小学校であると確信している。吹上小学校に移るということは、良い環境から、悪い環境に移ることになる。将来の日本を背負っていく子どもたちを育てるために、より良い教育環境で学ばせるべき。

吹上小学校は人員過剰である。大芦小学校を残していく努力をすべきであり、悪くなる方向に進んではならない。

大芦小学校の景観は素晴らしく、関東平野を一望できるこの環境が吹上小学校に劣るとは思えない。
⇒大芦小学校に比べて、吹上小学校の教育環境が悪いとは考えていない。吹上小学校や大芦小学校を含めて、市内における各小学校それぞれに良さがある。

○地域の方

・吹上小学校のグラウンドは、雨の翌日はぬかるんで使用することができない。大芦小学校のグラウンドは、そういった面でも優れている。

・小谷地域から吹上小学校までの通学路について、筑波の踏切前を通るルートにしているのはなぜか。
⇒通学路については、保護者同士で話し合った上で決定している。筑波の踏切前を通学路としている児童もいれば、セブンイレブン(鴻巣富士見2丁目店)の前の通りを通学路としている児童もいる。

いずれの通学路も、保護者や交通指導員の立哨のもと、安全な通学が行われている。

・小谷地域におけるスクールバスの運行状況は。

⇒教育委員会でも何度もスクールバスに乗車するなど現況確認しているが、現時点で、問題なく運行している。

・小谷地域から箕田小学校に通学している児童の通学路は整備されているのか。

⇒武蔵用水路脇の県道を横断する箇所に交通指導員を配置するとともに、道路の整備を行った上で横断歩道も設置するなど安全対策を実施している。

○在校生保護者

・小規模校の具体的なデメリットを教えてほしい。小規模校にしかできないこともあるのではないかな。

⇒ある程度の児童数があることで、グループ学習の中で多くのグループを形成でき、多様な意見の交換を行うことができるが、そもそもが少人数であった場合は、グループを作ることが難しい。また、チームス

ポーツや合唱などのダイナミックな活動についても、小規模校では、役割分担が限られ、実施できないことがある。

・少人数の学校でしかできないこともあるのではないかな。

例えば、大芦小学校では、トマトやサツマイモの植栽を実施しており、これは吹上小学校では行っていない。他にも、挨拶をしたらシールをもらえ、よくできた児童は給食の時間に発表をしてもらえるといた取り組みも行っている。人数が多ければできることもあれば、少ないからこそできることもある。

・吹上小学校の旧校舎では、和式のトイレがほとんどだと聞いている。和式トイレを使用することができない児童もあり、3学級が1か所のトイレを使用している状況では、我慢してしまう児童もいる。トイレの改修は、今後行われるのか。

⇒トイレの洋式化については、市内の学校の共通の課題となっており、優先順位を決めて取り組んでいる。

・トイレの改修や通学路の安全確保もされないまま、学校の統合だけを進めていくというのはどうなのか。大芦小学校に通う通学路についても、危険な箇所が多々ある。毎日、全ての場所に保護者が立つことはできない。

⇒通学路の安全確保については、学校の統合とは別の課題と考えている。現時点で安全が確保できていないと考えられる箇所があるのであれば個別に連絡してほしい。

・吹上小学校に子どもを就学させている知人からの話だが、令和6年度、吹上小学校において、担任の判断で授業に遅れてきた児童を廊下で遊ばせていたと聞いた。また、このことについて、知人が管理職に相談したところ、把握していないという回答だったとのこと。そういったことを自由にさせている学校には通わせたくない。

指導の難しい児童においても、まずは椅子に座らせる、みんなと同じことをやらせるというのが教育ではないか。※令和6年度時点で吹上小学校2年生とのこと。

また、連絡帳の確認のハンコもないし、連絡帳が白紙のまま帰ってくる児童もいる。人数が多くて目が行き届いていないのではないかな。現在は、その教員は転出しているとのこと。

通学区域の見直しを考えてもらいたい。

⇒児童数が多いことで、その問題が発生しているわけではない。人数が少ない学校でも同様の事例はある。

また、担任と管理職の情報交換は密に行っており、その中で何かしらの対応が行われている。何も知らなかったというのはあまり考えられないが、当事者がこの場におらず、事実が分からない中で、第3者同士が話しても答えは出ないので、この件については、吹上小学校に確認する。

○地域の方

・大芦小学校に隣接している吹上富士見4丁目が吹上小学校に通学している現在の通学区域は不自然。通学区域を見直すつもりはないのか。

⇒大芦地域を含めて、市全体で児童数は減少していくことから、10年、20年先を見据えて動かないといけないと考えている。

・大芦小学校はまだ発展途上。吹上小学校は150年の伝統を背負っており、身動きができない。校庭も小さいし、大芦小学校の校庭を借りなくてはいけなくなるのではないかな。

⇒大芦小学校の校庭を借りなくても、十分に対応できる。

大芦小学校と吹上小学校のどちらかを悪いとは考えていない。もし、吹上小学校の教育環境が悪いのであれば、そもそも、このような検討は行われたい。

・吹上富士見4丁目の児童が大芦小学校に移れば、人数が増えて、大芦小学校を存続させることができるのではないかな。

⇒児童数を調整して、小学校を残そうというのが第一ではない。より良い教育環境を子どもたちに提供するためにはどうすべきなのかということを考えている。

また、通学区域の見直しについては、吹上小学校でのヒアリングや懇話会において意見をもらっている。その中では、吹上富士見地区の保護者が大芦小学校に移るということは望んでいないという意見。

教育委員会としても、皆さんに負担をかける以上、失敗するわけにはいかないと思い、業務に取り組んでいる。今だけを考えて、学校を移ってもらうことはできない。

・仮に、吹上小学校と大芦小学校のどちらが良いかを全国アンケートした場合、吹上小学校を選択する保護者はいないと確信している。

○地域の方

・文部科学省が示している「少人数学級による効果等について」という資料がある。この中では、各教科の正答率、授業中の私語の少なさ、勉強が大切だと思う生徒の割合、いずれにおいても児童数が14人以下の学級規模が高い数値を示している。40人学級より、20人学級のほうが優れているというのは明らかではないか。また、先進国は少人数学級に舵を切っている。

令和6年度に大芦小学校の児童を対象にしたアンケートにおいても、大芦小学校がなくなるのが嫌と回答した児童の割合は9割近い。少人数学級や広い校庭に魅力を感じているからこそ残したいと思っているのではないかな。

⇒小規模校のメリットがあるということは、教育委員会としても理解しており、大規模校が優れているとは考えていない。適正な人数になるよう、適正規模・適正配置に取り組んでいる。また、この取り組み事態が文部科学省によって進めているものであり、鴻巣市だけでなく、全国の自治体で行われている。

先進国に倣って、小規模校にすべきだという話であったが、決して日本が遅れているわけではない。例えば、OECDの調査においても、数学的リテラシー、読解力、科学的リテラシーの3分野すべてにおいて世界トップレベルに位置している。

しかし、勉強をすることだけが学校に行く意味ではなく、様々なことを加味して、学びを行っていく必要がある。吹上小学校でも習熟度別学習を行っており、少人数学級の良いところも踏まえて、学校運営を行っていくことが大切だと考えている。

子どもたちの9割近くが大芦小学校に残りたいというアンケート結果については、当然の結果だと考えている。先生たちが全力で子どもたちに対応している中で、子どもが満足した環境で生活できるというのは教育委員会としても非常に喜ばしいこと。逆に1割の児童が心配。過去に統合等を実施した、笠原、常光、小谷小学校でも統合前にアンケートを実施したが、当初は同じ結果。

・鴻巣市では子どもの権利条例を制定しており、第7条にて、意見の表明及び参加する権利が記載されている。統合したくないという子どもの声、これを無視して、閉校を進めていくのはおかしいではないか。
⇒子どもたちは今の環境に概ね満足してくれており、変えたくないと考えていると思う。

他の状況や将来を考え、大人が良い方向に導いていかななくてはならない。それが教育委員会の責務だと考えている。

・不登校は増え、経済は伸びず、論文の発表数も減り、賃金は増えない。それで日本の教育がうまくいっているとは言えないのではないか。

400人の学校規模、一クラスの児童数が35人というのは大規模校。100人が適正規模。

子どもたちは、自分たちのことは分かっている。子どもたちは何にも分かっていないというのはおかしいのではないか。

⇒子どもたちが何も分かっていないと言ってはいないし、思ってもない。

また、現在の学校規模に比べて、昔の学校は、より大規模であったことを考えると、経済停滞等の問題の理由が、全て学校規模に起因するものとは思っていない。

少人数だから不登校がなくなるわけではないし、大人数でも、少人数でも同じような課題はある。一人一人にあった教育を実施することが大切と考えている。

○未就学児保護者

・令和8年度に入学予定だが、少人数の学校には行きたくないというのが子どもの意見。保護者としても同様の意見である。

令和7年12月議会に議案を提出し、令和9年度の統合を検討しているということだが、令和8年度に入学予定の児童も1年早く吹上小学校に入学できるのか。

⇒仮の話として、令和9年度に統合する場合は、令和7年の12月議会までには議案を提出しなくてはならないという話であって、現時点では、12月議会に議案を提出することが決定しているわけではない。

ただし、仮に、令和7年度中に条例改正を行った場合、今までの笠原・常光・小谷小学校の事例から鑑みても1年早く令和8年度の入学を認めることとなる。

○地域の方

・教育委員会はどこを向いて仕事をしているのか。子どもたちではなく、財務省を見て仕事をしているのではないか。柳田國男の著書にも、財務省が教員を切りたいから、学校を減らしたと記されている。教育委員会が子どもたちのことを考えているとは思えない。

⇒教育委員会は子どもたちのことを第一に考え、業務に取り組んでいる。考えていないと思われたのであれば、伝わらない部分、足りない部分があるのかもしれない。

教員の成り手がいない中で、教員を切るとか、そのようなことは考えられない。もちろん、予算については、限りがあることから、それも踏まえて、慎重に検討しなくてはならない。

○在校生保護者

・小谷小学校と大芦小学校が統合しても適正規模な児童数にならないということは以前から聞いていたが、小谷小学校の通学区域再編の際に、大芦小学校を選択肢に入れる考えはなかったのか。

⇒小谷小学校については、もともと吹上小学校との統合を計画しており、意見交換会を実施していく中で、箕田小学校、赤見台第二小学校を含めた通学区域の再編となったが、大芦小学校については、小谷小学校と同様に吹上小学校との統合を計画していたため、一時期、大芦小学校に通えたとしても、再度、吹上小学校との統合の可能性がある中で、選択肢には入れる考えはなかった。

・「児童数がここまで減少したら閉校」、「アンケート結果がこうなったら閉校」など、具体的な基準を設けて、閉校に取り組むのが良いのではないかと。現時点では、大芦小学校に不満はない。

⇒閉校に取り組む具体的な基準はない。

今後、ある程度の児童数が維持され続ける見込みがあるのであれば、大芦小学校の統合を計画する必要はないのかもしれないが、今後の児童数は減少することが数字として示されていることから、検討しているもの。

○在校生保護者

・通学区域の見直しは考えていないということだが、提出した意見書の内容にて、方向性をいくつかあげさせていただいた中で、特に通学区域の見直しというのは64%の保護者が賛成しているもの。それを検討しない根拠が理解できない。

通学区域の再編について、吹上小学校の保護者にヒアリングを実施したということだが、どのような方々を対象に実施したのか示してもらわないと納得できない。将来的な部分は難しいと思うが、現状の児童数については適正規模の児童数が担保できるのではないかと。

対象地域にアンケートを実施するなど、段階を踏んで検討を進めてもらわないと納得することはできない。

⇒吹上小学校の一部の保護者を対象にヒアリングしたものであり、全体を対象にしたものではない。

また、ヒアリングした際には吹上小学校の保護者からもアンケートの実施に対して肯定的な意見もあった。しかし、アンケートを実施することで不安に思ってしまう保護者もいるのではないかと考えている。

改めて、吹上小学校の保護者とも話し合い、アンケートの実施について検討する。

・不安に思うか思わないかというのは、教育委員会の説明の仕方次第。事前に説明した上でアンケートを実施すれば問題ないのではないかと。

○在校生保護者

・こどもまんなか宣言といいながら、子どもの意見は聞かないで進めているというのは事実ではないか。

吹上小学校では臨時採用の教職員が多いということを聞いている。そこについても不安を抱えている

保護者が多い。

大芦小学校のトイレの改修や通学路の改善についても、仮に、12月議会に挙げた場合、優先順位が落ちてくるのではないかと。

夏頃に吹上小学校の見学会を実施してほしい。その中で、吹上小学校の施設面での課題を確認し、修繕してもらえるのかどうか聞きたい。大芦小学校でかかっていた経費を吹上小学校のトイレ改修や通学路の改善に充てることができるのかで統合における賛否を判断したい。令和7年度12月議会に提出して、令和9年4月に統合というのは、現時点での教育委員会の考え方であり、法的根拠はないものと思っている。上記のようなことがあれば、保護者の立場として反対する権利はある。

⇒12月議会というのは、決定した話ではない。仮に、令和9年度に統合する場合には準備期間を設けるなど、逆算して、遅くとも令和7年度中に議会に条例改正を提案しなくてはならないということ。

統合の準備期間は1年と考えている。短くてもだめだが、長くても子どもたちが不安に感じる期間が長くなってしまう。その中で、保護者や子どもたちには吹上小学校を見学してもらう機会をつくる。また、通学路の改善等についても行っていく。

・子どもが一番納得できる形で、次に保護者が納得できる形で、検討を進めてほしい。

○地域の方

・教育委員会は学校を閉校させたら終わりというように考えている。その後の地域コミュニティの形成も含めて、徹底的に話をしてもらいたい。小谷小学校に教育支援センターを移して、終わりというわけではない。

農業体験に携わっていた地域の方は、来年から実施できなくなるのは悔しいと言っている。残念ではなく、悔しいという言葉を使っている意味を考えてほしい。小谷小学校は150年の歴史を背負っており、教育委員会は地域から恨まれる。

これならやむを得ないという理由がないと、大芦小学校は納得することはできない。

小谷のささら獅子舞について、小谷小学校がなくなること、まとめる人がなくなっている。閉校する際にはそのようなことまで決めて、文化が続いていくということを示してからにしてもらいたい。

児童数はさらに減少していく。今の進め方だと、常に閉校を繰り返すことになる。

大芦小学校から吹上小学校になることで校庭は半分になる。半分になることで、ぎゅうぎゅうになって体操をすることになる。そんな馬鹿な話はない。

校舎とか児童数とか、練りに練って作った計画ではないということを断言できる。このまま統合を進めた場合、教育委員会は歴史に汚名を残すことになる。コンクラーヴェのように夜通しでも話し合い、相互理解することが必要。日本全体の人口が減っていく中で、戦略的な話をしてもらいたい。

⇒いただいた意見については持ち帰らせていただくが、校庭がぎゅうぎゅう詰めになるとは考えていない。

小谷小学校についても閉校して終わりということは考えていない。現在も、通学路や通学方法、跡地のあり方についても引き続き検討している。小谷地域の方にも、一定の理解はいただけているものと考え取り組んでいる。

○地域の方

・適正配置という言葉が使われているが、適正配置という言葉よくわからない。教育委員会が考えている適正配置の姿を教えてほしい。

⇒これまでは各地域の中心に学校が配置されてきたが、人口の減少により、望まれる教育環境としての適正規模の児童数を維持することができなくなってきた。このことから、適正な児童数になるよう、学校の統合や、通学区域の再編を実施し、鴻巣市として、最善な学校の在り方を検討しているもの。

・鴻巣市の考える適正な児童数とは。

⇒学校全体で国の示す12～18学級になるような児童数が適正と考えている。

・通学するのにスクールバスが必要な距離というのは、適正な通学距離なのか。

⇒市内の小学校が、各家庭から直線距離で概ね2kmの範囲に設置されていることから、距離としてはこれが適正かもしれないが、児童数が非常に減少していく中で、この課題を解決しないといけない。

そのような状況の中で、学校が統合され、通学距離が2km以上となってしまった児童に対しては、安全に通学するためにもスクールバスを運行している。

・吹上小学校の児童数はどれくらいになるのか。また、下忍小学校の児童数はどれくらいになるのか。

⇒吹上小学校の令和7年2月1日時点での児童数は569人で令和12年度には415人程度になることが推測されている。(資料のとおり)

下忍小学校については、令和7年5月1日時点で556人。令和12年度も大体同じ数字であることが推測されている。

・令和7年度、鴻巣市が計上しているスクールバスの運行費用は。

⇒約 8,000 万円。

・そのうち、北新宿地区で運行しているスクールバスの費用は。

⇒約 2,500 万円。

・その費用を毎年計上していくことを考えれば、橋を架けかえることはできたのではないか。

⇒橋の架け替えだけでなく、その先にある住宅地の用地買収も行い、道を広げなくてはならないことから、莫大な費用がかかることが見込まれる。

○在校生保護者

・少人数学級である大芦小学校の良さ、吹上小学校の良さ、どちらもあると思う。しばらくは両校を残していくべき。

AI が発達して行く中で、10 年後、20 年後の日本がどうなっていくかは分からない。農業の従事等といったことを考慮し、農業体験は引き続き行っていくべき。

避難所についても、学校が運営されているからこそ、何かあったときに、すぐに避難所として活用でき

るのではないか。

学校の閉校については、1 年、2 年ではなく、時間をかけて検討してもらいたい。

45 年前に大芦小学校を立ち上げる際、地域の方々が意見を出し合って作り上げてきたのが大芦小学校。市内の他の学校とは成り立ちの経緯が異なる。地域の人たちが納得できるよう、理解してもらえるように説明してもらいたい。

○地域の方

・適正規模・適正配置の取組について、本当に子どもたちのためになるのかというのは疑問。大芦小学校では、放課後子ども教室が盛んに行われているが、吹上小学校では、人数の関係で高学年の放課後子ども教室を実施できていないと聞いている。

自治体によっては、学校選択制を実施している地域もある。通学区域の見直しが行われないのであれば、特認校として、小規模校を希望する子は、大芦小学校に通学することができるようにし、学校を残してもらいたい。

⇒特認校については、この場で即答することはできないが、これまで閉校した学校においても、同様の意見は出たことがあった。

しかし、他地域における特認校の状況を見ても児童数が著しく減少しており、適正配置等の対象校となるなど、議論されていることから、検討するには慎重にならざるを得ない。

・児童数は減少していくかもしれないが、まずはやってみてほしい。

以下、意見交換会後の意見

○在校生保護者

・大芦地域の理解を得るためには、吹上富士見地区に対して、通学区域の見直しに関するアンケートを取るべきだ。

⇒吹上小学校の PTA 役員に相談した際には、アンケートをとってもよいのではないかといい意見をもらっている。アンケートの実施方法について検討する。

・在校生保護者との意見交換に関しては、もう少し人数を絞って実施したい。

⇒教育委員会としても是非実施したいので、調整をお願いしたい。

○在校生保護者

・未就学の子を持つ親が、人数があまりにも少ない学校を敬遠する気持ちはわかる。すでに入学している自分たちの子どもは大芦小学校で卒業させてほしいので、閉校ではなく、入学停止にしてもらいたい。

⇒入学停止についての意見は、これまで閉校となった学校での意見交換会の際にももらっていた。

気持ちは十分にわかるが、下の学年が入ってこないで、最終的に極少数となった場合のこどもたちの教育環境は決して良いものとは言えない状態となる。学校運営としてもかなり厳しいものとなるため、慎重な判断が必要。

○在校生保護者

・これまで何度も参加してきた。自分の子どもは、統合予定年度の令和9年度には卒業してしまうが参加している。地域の方、保護者、教育委員会、それぞれの立場での意見については理解できる。意見を聞く対象が広いと、様々な意見がでてしまうので、テーマや対象を絞って開催した方が、より掘り下げた内容での意見交換ができるのではないかなと思う。

○地域の方

・初めて参加した。多くの方の意見を伺いたかったが、音響が悪く、とにかく聞こえづらかった。今後は配慮してほしい。また、初めて参加した方は前の話が分からないので、これまでの経緯等についての資料や説明があるとありがたい。